

第2期赤磐市子ども・子育て支援事業計画（素案）に対するパブリックコメントの結果

募集期間 令和元年12月20日（金）から令和2年1月20日（月）

意見件数 6件（1名）

ページ	いただいたご意見	市の考え方（回答）
16P	<p>◆2-3. 地域の子育て支援事業の利用状況（就学前）</p> <p>子育て支援事業を利用していない人が結構な割合を占めているのは、とても残念な気がします。それぞれの支援センターや保育園などで、支援事業をしてくださっているけれども、それをターゲットまで届いていないのが現状でしょうか。支援センターや保育園などのイベント告知を増やすことで、利用しようと思う人が増えるのではないかと思います。</p>	<p>多様化する家庭で子育ての一番忙しい時期（就学前）の親にどう子育て情報を発信していくかは大きな課題です。ネット社会中心の現在、子育てをする親のあり方や考え方を理解し、実態に応じた支援方法（情報発信等）を考えていきたいと思います。</p>
17P	<p>◆2-4. 病児・病後児保育や不定期の事業について（就学前）</p> <p>近くに実家がない場合（見てもらう人がいない）は、どうしても母親の負担が大きくなる気がします。病児保育に行かすかどうかを考えた結果、自分が休むことを選択せざるを得なくなるという状況になります。急な呼び出しで子どもを迎えに行き、仕方無く仕事場に連れて行って寝かせておく状況になったこともあり、そのような場合のヘルプセンターのような事業があればとても助かります。仕事も休めない、子どもも預けられないとなると、どうすればいいのか。赤磐市内でベビーシッターを依頼することは可能なのでしょうか？保育型ホームヘルパー？</p>	<p>病児保育は、看護師等の専門職の確保が必要で、容易ではありませんが、円滑な事業の実施のため、人材の確保に努めてまいります。</p> <p>県内の市町での広域相互利用協定に基づく病児保育事業の制度やファミリーサポートセンターの利用など、その他のサービス内容の周知方法を工夫していきます。</p>
19P	<p>◆2-6. 放課後の過ごし方（小学生）</p> <p>最近の放課後の過ごし方は、自宅に帰るか習い事に行くかの2つがメインになっていると思います。自宅でもなく、習い事でもなく、放課後子ども教室のような居場所が各地にあるといいなと思います。特に雨の日の子供たちは居場所がなく、木の陰で雨宿りしていたりという状況を見ると、なんだかかわいそうになりますね。放課後子ども教室は、今後全地域的に展開されるの</p>	<p>近年、地域における教育力の低下、家庭の孤立化などの課題や、子どもたちを取り巻く問題の複雑化・困難化に対して、社会総掛かりで対応することが求められております。そのため、放課後子ども教室では、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行っていく活動により、子どもたちの社会貢献意識、地域への愛着、コミュニケーション力及び学力の向上、教員の</p>

	<p>でしょうか。興味別に放課後教室を分けてサークルのように活動するのでもいいかもしれませんね。「歴史探訪部屋」「お絵描き部屋」「本日のお料理教室」など趣味や興味を深めてさらにやる気の出る子を育てられる？「行かされている」→「行きたいから行く場所」へ</p>	<p>地域・社会への理解促進、地域の教育力の向上などを目指しています。今年度、赤磐市内では赤坂東軽部土曜日子ども教室、吉井土曜日子ども教室、山陽公民館土曜日子ども教室、山陽東小放課後子ども教室、仁美子ども教室、中央公民館放課後子ども教室、笹岡小放課後子ども教室の7教室で、学校の余裕教室や、公民館等の社会教育施設を活用し、地域ボランティアの協力を経て、学習支援や地域の伝統文化の継承、自然体験活動などさまざまな交流活動を行っています。今後も他地域への普及へ向けて、取組の意義、目的や地域住民の参画の重要性について理解の促進を図るとともに、活動場所の確保や、人材育成に努め、子どもたちの安心・安全な居場所づくりを推進していきます。</p>
<p>24P</p>	<p>◆4. 子育て支援施設・児童館の状況 各施設それぞれの利用状況が気になります。子どもの年齢層やリピータの割合など。</p>	<p>子育て支援センターは、あすなろ・さくらが丘・チャルラル・児童館・吉井の5ヶ所あります。利用状況としてあすなろ、さくらが丘については保育園に併設されたセンターですので兄弟が保育園に入園されている親子が多いのが特徴です。チャルラルは古民家を利用したアットホームな雰囲気作りでリピーターも多く、子どもの年齢層も様々です。吉井は特に1歳未満のお子さんが大半で1歳以上は保育園入所する家庭が多いようです。また、児童館は曜日によって赤磐市外の方も利用できる所以利用者数はとても多く、リピーターも多いです。ゆったりと景観も良く、お母さんがくつろげる雰囲気が好まれています。</p>
<p>33P</p>	<p>◆6-3. 施策の進捗状況 (2) すべての子育て家庭が、喜びとゆとりを持って子育てができるまち (1) ゆとりを持って子育てを行うために 子育て相談・交流広場（ファミリア）を開催実施？は、いつどこで開催されているのかの認知度はどれくらいなのか？認知度と来場者数などを検討し</p>	<p>子育て相談、交流広場「ファミリア」は毎週月曜日に大苅田読書公園で実施しています（1月～3月・4月～6月は第2・4木曜日増設）。 孤立しがちな家庭や悩みや不安を抱える家庭、仕事で学習機会に参加できない家庭など、支援が届きにくい家庭の支援として、家庭教育支援チーム員</p>

	<p>て、開催場所や時間帯を考慮することも必要なのかなと。</p> <p>例えば、家庭保育の方を対象にした時間帯では、いきいき交流センターの幼児室にて出張相談所を臨時で設置したり、親子があそびにくる場所での開催が一番有効なのかなと思います。子育て中の保護者の方は、家事や育児におわれ、笑顔で過ごす余裕なんてない！という声をよく聞きます。母が笑っていれば、子どもも楽しくなるし嬉しくなる。母がいつも怒っていれば、子どももいつもイライラしている。そんな世の中では悲しいので、少しでも母には笑ってほしいと思います。母たちが少しでも「余裕」を持てる、余裕が持てた！と実感できるような時間を提供することが必要なのかなと思います。すこしの時間だけでも、子どもから離れて一人の時間を過ごすことは、ものすごいリフレッシュになることを実感して欲しいです。その少しのリフレッシュで、その後の子どもに対する対応が劇的にかわると経験上感じています。出産祝いとして、「ファミサポ 30分無料チケット」「母の癒しの時間 30分券」のようなものを進呈するのもいいかもしれないですね。母のリフレッシュ&amp;ファミサポ体験で一石二鳥で、その後のファミサポ利用にもつながるのでは？と思いました。</p>	<p>が、家庭教育相談や交流を行っています。家庭教育支援チーム員は子育て経験者や、元保育士などのボランティア8人で構成されています。「ファミリア」へは毎回5～20人程度の来場者があり、実施場所の大苧田読書公園は子育て中の保護者の心が休まる閑静な場所に在る社会教育施設で、10年以上継続して開催しています。相談内容は不登校や発達障がいに関することも含まれることから、可能な範囲で呼びかけによる広報をしています。今後の開催場所や時間についても考慮し、悩みや不安を抱える保護者が安心して訪れることのできる場所を継続して実施していきたいと考えています。</p> <p>いただいたご意見については、今後の子育て支援の参考とさせていただきます。</p>
52P	<p>◆第8章 施策の展開</p> <p>「子どもたちの笑顔あふれるまちづくり」には、保護者の笑顔があふれていることが前提であると思います。赤磐市全体が笑顔であふれる地域であるといいなと思います。ありがとうございました。</p>	<p>基本理念とする、子どもたちの笑顔あふれるまちづくり～地域の力を活かし、ともに育み築く明日の赤磐市～の実現のため、すべての子どもが、健やかに成長し自立できるまち、すべての親が心身ともにゆとりを持って子育てができるまち、子育てや子どもの成長を見守り、互いに励まし合えるまちを目指し、よりよい子育て支援体制を整えていきます。</p>